

湖南市では、平成18年度から学校図書館支援センター事業を展開し、学校間や公共図書館との図書流通を図るとともに、市内の小中学校では図書を活用した授業実践を行い、学び方を学ぶ場としての学校図書館を活用した授業改善を図っています。

以下は、小学校での取組の例です。

### 5年 社会科「わたしたちの生活と環境」 について、ポスターセッションをしよう！

#### <学習の流れ>

1. わたしたちの生活を支えている工業、農業、水産業等に関する環境問題について調べる計画を立てる。
2. これまでの生活経験や学習をもとに、自分の調べたい分野を選び、どんな環境問題があり、原因が何かについて調べる。
3. 図書資料から自分の課題に応じた必要な情報を取り出し、その情報を利用して自分の考えをまとめる。

#### 【情報リテラシー】

- ・目的に応じて文章を引用・要約をしたり、自分の考えをまとめたりする。
  - ・情報を探す際に、図書に付箋を貼る等、情報を整理する。
  - ・「探してます」コーナーを設け、学級全員で情報を交流する。
4. 調べたことをポスター形式にまとめる。
    - ・ポスター作成の時には、分かったことや自分の考えたことが伝わるよう工夫をする。
    - ・質問を想定し、質問の回答を調べる。
  5. ポスターセッションをし、意見交流を行う。
    - ・聞く立場の時は、メモを取り、問い返せるようにする。

子どもの  
生き生き  
とした姿

知りたい、分  
きたいという  
思いが家での  
調べ学習に  
発展！



#### <ポスターセッション>

調べたことを伝えたいという思いが  
いっぱい！聞き手の質問にも自分の  
言葉で適切に対応！！

#### <学校図書館活用指導員の支援>

市内の小中学校から図書流通  
を活用し、200冊の本を準備

#### <学校図書館協力員の支援>

資料活用のための選定・確保  
～資料の構築・資料の充実～

#### <学校図書館活用指導員の支援>

TTで授業に入り指導

学校図書館活用のための指  
導体系表の活用

- ・情報モラル
- ・情報源の探し方
- ・情報源の使い方
- ・目的にあった情報源の利用と比較
- ・情報のまとめ方と伝え方

レファレンス

- ・児童の相談に対応



#### <情報は付箋で整理！>

見つけた情報に付箋をはり整  
理し、貼った場所を交流する。

本校では「生涯にわたって学び続ける基盤としての言語力の育成」を研究テーマとして全教育活動を通して読解力・表現力の向上を目指しています。  
そのための図書館教育部としての主な活動は、以下の7点です。

### 1 朝読書の取組

本校では、朝読書には平成6年から継続して取り組んでいます。毎朝わずか10分間ですが、生徒たちは本の世界に浸っています。

この時間には、担任は教室で、他の教師は職員室で読書しています。



### 2 生徒会図書部の活動

図書部では、司書教諭の指導の下に、新着図書や「おすすめの本」の紹介、感想の交流、学級毎の読書量の結果などを内容とする図書新聞を作成し、読書意欲喚起の推進役を担っています。

### 3 図書館支援スタッフの力を借りた取組

支援スタッフは、図書部員の貸し出し活動の支援や、図書整備など、より活用しやすい学校図書館をめざした環境づくりを行っています。また、府立図書館との連携を図り、さまざまなジャンルの本を増やし、生徒が幅広く選択ができることを目指しています。



### 4 「プチライブラリー」の開設

本年度は、生徒の読書意欲を更に喚起するべく、一階の廊下に「プチライブラリー」を開設しました。

ねらいは以下の2点です。

- ①校時の関係で、図書館の開館時間の確保がしにくいため、休憩時間の貸し出しを可能にする。
- ②自主申告による貸し出しにすることで、より手軽な貸し出しを可能にする。

プチライブラリーには、学校図書館の本の一部、また、教師や地域の方が持ち寄った、中学生に読んでほしい本を並べました。これによって、わずかの休憩時間にも本を手にしたり感想を交流し合ったりする姿がよく見られるようになりました。



### 5 「読書の集い」の開催

「読書の集い」は、毎年3～4回開催しています。「子ども読書の日」に寄せた4月には、例年、教師による読書体験をおりませながら、「おすすめ本」の紹介をしています。

7月には地域の朗読ボランティアの方による読み聞かせの会、11月には、地域の図書館長さんによるブックトークを催しています。絵本から哲学書まで、幅広く朗読や紹介していただく中で、読書の楽しさを知らせるだけでなく、さまざまな分野の本に目を向けさせることや、読書の質の向上を目指しています。





## 6 部活読書の取組

雨天時や冬期の積雪時など、天候によって部活動がしにくいときなどを、各クラブで読書活動の時間として活用しています。

部活読書では、個々自由な本を一斉読書するだけでなく、部活動に関わる書籍の読書や読み聞かせをすることで、部活動に対するモチベーションを高めたり心構えを学んだりしています。

## 7 「学校支援セット貸出」の活用

今年度は、学校図書館の学習・情報センターとしての機能を充実させるために、府立図書館の「学校支援セット貸出」を活用しました。古典文学



に対する理解や鑑賞を深めるための調べ学習、自然環境と人間の関わりを考える卒業レポート作りなど、それぞれの教科で学校図書館で調べ学習を行い、学習のねらいに応じての本の選び方や情報の精選の仕方などを学ばせながら、学習の充実を図っています。

従来から学校図書館に揃えている図書と「学校支援セット貸出」とを合わせて活用することで、幅広い、また多人数の調べ学習が可能になりました。



今後も、読書活動や調べ学習の充実を図り、「読んで考え、調べて考え、自分の言葉で表現できる生徒」の育成を目指したいと考えています。



# 「本が好きなまちづくり」をめざして

～みんなで支える学校図書館 みんなで広げる読書活動～

向日市教育委員会

今、「生きる力」において求められている思考力・判断力・表現力の育成に向け、『言語活動の充実』は大変重要視されています。そのための有効な手立てとして、学校図書館の活用は大きな役割を担うため、向日市では、各学校が特色ある読書指導や学校図書館活用を進めることで、児童生徒に読書力、学びを支える言語の能力、思考力等を育成するとともに、児童生徒、大人も一緒に本に親しむ「本が好きなまちづくり」をめざした取組を展開しています。

各学校では、司書教諭が中心となり、学校図書館活用授業の推進をはじめ、読書タイム、ペア読書、親子読書等の読書の取組、書架配置の工夫やブックストリート、NIEコーナーの設置等の環境整備、保護者への貸出等の地域開放等を行っています。さらに、教育委員会から派遣している学校図書館支援員や地域の保護者を中心とした学校図書館ボランティアがその活動を支えています。



〈異学年によるペア読書〉



〈学校図書館支援員によるブックトーク〉

## 学校図書館支援員との連携による学校図書館の有効活用

学校図書館支援員は、各小中学校において、学習への活用や、読書力、学びを支える言語の能力、思考力の育成等に向け、各学年への学校図書館活用授業の提案、レファレンス活動等を行っています。

各学年、学級における支援員と協同しての教育課程に基づいたブックトークや市立図書館の団体貸出による図書資料の活用、読書へのアニメーション等、学校図書館を活用しての授業がより活発になるにつれ、児童の読書意欲、図書資料の利用が高まり、貸出冊数の増加や来館者数の増加へと表れてきています。



〈映像とフルト等の生演奏による読み聞かせ〉

## 学校図書館ボランティアとの連携による読書意欲の向上

ある中学校では、お昼休みに学校図書館ボランティアによる『図書館お話コンサート』が行われています。

映像や生演奏(フルト、キーボード等)を読み聞かせに加えることにより、お話の世界を大きく膨らませています。今年度は「くるみ割り人形」に取り組みました。

図書館が大好きな生徒はもちろんのこと、そうでない生徒も、この日は図書館に向かいます。そして待ち時間には、あちこちで本を手取る姿が見られます。お話や本との架け橋として、学校図書館訪問のきっかけづくりとして大好評の取組であるとともに、読書意欲の向上につながっています。



〈満席となり、立見も出る中で行われるお話コンサート〉

今後さらに児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実を図るため、各校の特色ある取組や授業研究、蔵書のデータベース化を活用した分析等により、読書の質や学習・情報センター機能等を向上させるとともに、親子読書や保護者への貸出等、家族ぐるみの読書を推進し、児童生徒、大人も一緒に本に親しむ「本が好きなまちづくり」の取組の充実をさらに図ってまいりたいと考えています。

## ファイル資料を利用した学習を通して学校図書館の授業での利用を活性化

三木市立中吉川小学校

本校では、子どもたちがさまざまな授業で学校図書館を活用できるようにさまざまな情報の充実に取り組んでいます。子どもたちによるファイル資料作りとその活用もその一つです。

学校図書館にファイル資料を充実させることにより、蔵書だけでは得られない地域に密着した最新の情報を得ることができます。このことによって、社会科や総合的な学習をはじめとしてさまざまな授業で学校図書館を活用する機会が広がり、子どもたちは、身近な題材について楽しく学習しながら情報活用スキルを身につけています。

三木市と多可町学校図書館教育研修部会合同で、学校図書館の活用を活性化するために、「学校図書館学び方・ワークシート集」を平成21年度に作成し、各学校で活用しています。

本校では、このワークシート集を利用し、ファイル資料の作成から活用までを計画的に行っています。

ファイル資料の作成では、はじめに学習テーマを決めます。「私たちの三木市について調べよう」などの身近なテーマです。子どもたちは、地域の各機関の資料や新聞の切り抜き、インターネット上の情報などを集めます。

次にワークシート集を参考にしながら、持ち寄った情報に件名や出所を付けてファイル資料を作成します。できあがったファイル資料は、今後の調べ学習で活用しやすいように分類して整理しておきます。

子どもたちが作ったファイル資料を使った学習では、はじめにグループごとに学習課題を決めます。例えば「三木市の福祉について調べよう。」「三木市のおすすめスポットは?」「三木市が『日本一』のものは?」などのテーマです。

次に、課題解決に役立つファイル資料を選び、知りたいことを調べます。その際、ファイル資料だけでなく、図書やインターネットなどの情報もあわせて活用します。子どもたちは、ワークシート集を用いて、ファイル資料の使い方を学びながら調べ学習をすすめます。最後に、それぞれのグループが調べたことを発表し合い、発見したことなどを共有します。

子どもたちは、自分が作ったファイル資料が自分や友だちの学習に役に立っていることを実感しながら意欲的に学習を進めています。また、検索の仕方を学習することで、より多くの情報を見つけ出すことができることを知り、学習への関心は一層高まります。

ファイル資料を活用した学習は、地域に密着した身近なテーマを中心に進めていますが、テーマや学習計画を工夫することにより、子どもたちは自らさまざまな情報を関連づけ、学びを深めています。

例えば、「三木市の福祉について調べよう」の学習を進めるうちに、子どもたちが憲法の基本的な原則が市の施策にも反映されていることを発見しました。

このように、学校図書館での情報活用スキルの向上を図る取組は、子どもたちが広く社会に目を向け、必要な情報を深く理解しながら成長するうえで、大きな可能性を持っています。



【ファイル資料を調べて】

三木市について調べてみよう

①三木市の人口は? (2008, 12月現在)  
83,014人 (-73人)

②三木市が『日本一』のものは?  
よかたん(が)豚(を)食(う)く(た)量(か)日本一  
酒(の)王(を)三木(山)田(橋)の(生)産(日本一)  
あまの(の)物(産)品(は)?  
金物 お酒

③三木市のよさをかきまわすには?  
よかたん 三木 城 表 と

④三木市について、新しい発見を書いて下さい。  
はじめて(の)実験(装置)は(世界一)と(初めて)  
知(り)ました、大(工)石(の)生(産)No.1と(さ)  
う(の)も(知)りました。

## 小中学校で連携しながら図書館を活用して、学校教育を深化させる

東出雲町(出雲郷小学校、揖屋小学校 意東小学校 東出雲中学校)

本町は、「東出雲は4校でひとつ」を合言葉に、ひとつの中学校区の連携体制をつくり、「図書館活用教育」を進めています。

「図書館活用教育」とは、すべての子どもたちに身につけてほしい情報リテラシーのスキルを、小中学校9年間の連携体制で繰り返し指導しながら、確実に「学ぶ力」の基礎にしようというものです。



出雲郷小学校

意東小学校



本町では、「学校図書館担当者会」があり、4校の図書館部(司書教諭、学校司書)と教育委員会の指導主事と支援スタッフなどがメンバーです。この担当者会では、1年間に各校の授業を公開しあって、その学校の授業者といっしょに「その授業で、スキル指導は効果的だったか」などについて話し合います。同じ授業を見たあとに話し合う場を作ることで、共通する認識を確認でき、課題をいっしょに考えることもできます。小学校の授業では、小学校の担当者は同じ授業の指導の参考になります。中学校の授業では、小学校でどこまで押さえた指導をしなければならないかを確認できます。

全町体制で取り組み始めて4年経ちました。今子どもたちには、確実に「探究心」と「学ぶ意欲」が育っています。指導をする教師も、そして子どもたちにも「わかった!」「そうだったのか!!」「楽しい!!」と喜ぶ顔がみられる…それが、図書館活用教育なのだと感じています。



揖屋小学校



東出雲中学校

※東出雲町は、平成23年8月1日に合併により松江市となりました。

## 学校図書館司書を全校配置し、学校図書館支援センターを中心に市全体で取り組む図書館教育

松江市教育委員会



松江市は平成21年度から公立小中学校全校(平成22年度は47校)に学校図書館司書を配置しました。その結果、図書館の環境整備が進み、児童生徒があふれる図書館になりつつあります。図書館に専門の司書がいるということが、図書の貸出しはもとより、図書の相互貸借、レファレンス、授業支援など多方面において図書館教育の推進に大きな力となっています。司書の全校配置については、島根県が推進している「子ども読書県しまね」事業の一環として司書の配置に財政的な支援をしていることも一つの要因となっています。今後は司書の資質を高めるための研修をさらに充実していきたいと考えています。

また、司書教諭についても全校配置を目指しています。(22年度は47校中40名配置)司書教諭は各校の図書館教育の要となって、全体計画の作成、オリエンテーション、ブックトークの指導、教職員の研修などにあたっています。特に今年度は、学習・情報センター機能の拡充を図り、学校図書館を活用した授業が増えています。



しかし、県が実施する「学びいききサポート事業」による加配措置がある学校は5時間程度の軽減措置をとっているところもありますが、ほとんどの学校は加配措置もなく司書教諭の図書館業務の時間確保ではきびしい状況が続いています。市教育委員会としては11学級以下の学校にもすべて司書教諭を配置することを目指すとともに、校務分掌の軽減等によって司書教諭の図書館業務時間数を増やすよう指導していきたいと考えています。

松江市学校図書館支援センターは、松江市教育委員会内に事務局があり、司書の雇用と配置、司書や司書教諭の研修、市立図書館からの学校貸出しなど様々な業務を行っています。活動の内容については学校図書館調査・研究会議を開催し、私立図書館長、県立大学教授、県読書活動普及指導員、市教育研究会図書館部長、司書教諭代表、司書代表などがメンバーとなり、学校図書館の現状把握と課題解決に向けての話し合いを継続しています。

研修としては、県立図書館読書普及指導員による読み聞かせや他校の学校図書館訪問による図書館運営研修、また児童文学作家を招いての絵本作り研修などを実施しました。また、学校図書館の様子を広く市民の方に知っていただくための「学校図書館パネル展」を開催しました。

## 島根県

# メディアセンターとしての学校図書館活用

益田市立益田東中学校

今年度から学校司書が配置(年間200日)された益田東中学校では、生徒の読書推進を行うとともに、教員に対する図書館活用推進を図り、積極的に授業等での図書館活用の取組みを実施しています。益田市の施策で学習資料が充実したことに加え、ICT機器を充実させたことが、一気に活用推進への突破口となりました。

まず、学校司書が配置されたことにより、学校図書館の図書資料が整備され、必要に応じて公共図書館や他の学校図書館からの借り入れをしてもらえるので、調べ学習に取り組める環境が整いました。そしてICT環境の整備です。本校では【パソコン、プロジェクター、実物投影機、スクリーン、スピーカー】を整備し、学校司書がその管理にあたることで学校図書館に常設が可能となりました。

その活用例としては、単元の導入等で、パワーポイントで作成した教材を使って生徒の学習意欲を高めます。現代の子どもにとって、画像というのは関心の高いものであるので、どの生徒も顔をあげて話を聞き、これからの学習に向けての指示や意図がより効果的に伝わります。また、パワーポイント教材も学校司書が協力して作成するので、教員の教材準備の負担も軽減されました。

そして、十分に用意された学習資料を使っての調べ学習では、生徒たちそれぞれが興味のある資料を見つけて、情報を取り出します。初年度の今年は情報リテラシー能力の育成までには到達できませんでしたが、多面的な資料にあたって情報に達する楽しみは十分体験することができました。また実物投影機を設置したことで、調べ学習の過程で、見本となる生徒の成果物を全員に示したり、教員が補助的説明を加えたり、リアルタイムに手元の資料をクラス全体で共有することが可能となりました。

発表でも、パソコン・実物投影機・スクリーンを使用して、自分が作成した資料ばかりでなく、参考にした資料の写真や図も

簡単に発表に利用できます。それにより、発表者のプレゼンテーション力が向上すると同時に、聞く生徒もみな顔をあげて聞くので、内容が全員に伝わりました。

その他の活用として、図書館の視聴覚教室化があります。スピーカーを設置したことで、音声のあるインターネット教材を利用したり、映画鑑賞から児童文学への推奨を図ったりしました。また、英語科でも英語版アニメや映像を見せて、外国の季節の風習を感じることができました。

このようにICT機器を活用することによって、授業への興味・関心を高め、学習意欲の向上を図ることができました。生徒は“図書館の授業は面白い！”という感想をあげ、教員からも“教室とは違った生徒の一面が見えてよかった”との声がよく聞かれています。



# 学校図書館を利用し、思考力・表現力を高めよう！

県立川島中学校・高等学校

本校は平成18年度より中高一貫教育校としてスタートしました。吉野川中流域南岸，温暖で自然に恵まれた場所に位置します。春には校舎北側を桜が埋め尽くすなど風光明媚という言葉がぴったりの学校です。昨年春には，選抜高校野球大会に21世紀枠として出場し，そのさわやかなプレイが地元吉野川市を活気づけました。文武両道を掲げる本校は，本年度より図書館事業の一環として，図書館を利用した学習を進め，生徒の学力向上と図書館の活性化に務めています。

## 《1》総合的な学習の時間(4年・5年) 調べ学習

4年次生は進路学習，5年次生は環境問題に取り組んでいます。大学から2名，県立図書館から1名，本校司書1名，担当教員1名がそれぞれの持ち味を生かし指導に当たっています。蔵書数が少ないため，県立図書館と連携し，週1回の貸出を行っています。

5年次生の「環境問題」(テーマ「環境といのち」)では地球温暖化や世界の食糧問題，水問題など，さまざまな環境問題について調べ学習を行いました。また，司書によるブックトークや大学教授による講演などにより，物事を深く見る目を養うことができました。百科事典，新書，自然分野に関する書籍類，それぞれの書籍から必要な項目と説明をいかに引き出すか，どのように相手に伝えるのか，……キーワードは……。それぞれの班が真剣に考え，表現方法を工夫。繰り返し図書館に足を運ぶ生徒たち。何気ないやりとりにもヒントを探しています。少しずつ図書館にも活気があふれています。

## 総合的な学習の時間の1コマ



★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★  
資料の調べ方や読み方のポイントについて指導を受ける生徒。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

## 《2》ブックトーク

県立図書館より司書を招き，ブックトークを行いました。第1回のテーマは「宮澤賢治」。魼物が好きだったという賢治さん。集まった生徒を前に石ころの話で盛り上がりました。つづいて，実際にブックトークの原稿を作る作業に……。まずは作品探しから。自分の推薦する本を探し図書館の中を歩き回ること数分。それぞれが一冊を手に資料作りに取りかかりました。

司書が手本を示し，実際にブックトークにチャレンジ。初めてのブックトークに少々照れ気味ではあったものの，各自が一生懸命に伝えました。本の持ち方，声の大きさ，スピード……学ぶことの多い一日となりました。2回目は「水」について紹介を受けました。知らないことばかりでしたが，大きな刺激となりました。

## 総合学習年次発表会(5年)



中学生出前授業 ことばの学習に興味津々

## 《3》中学校 出張出前授業

1年生2クラスを対象に国語の授業でことばについて学びました。第1回目は方言や慣用句など身近にあることばについて調べました。第2回目は和語・漢語・外来語について四国大学の世羅先生の授業を受けました。授業の中では先生の問いかけに各自が真剣に考え，自分なりの仮説をたて力説していました。また，「車」から熟語を考える場面では，次々と手が上がり，先生の板書が追いつかないこともありました。「ことば」のもつおもしろさや新たな発見など，生徒は興味津々で，最後は名残惜しい感じもしました。

《注》 \* 4年(高校1年)，5年(高校2年)

本校は、学校図書館を活用した課題研究を総合的な学習の時間におこなっています。

### ～大まかな流れ～

#### 1年生の学年末

生徒たちは、これから1年間をとおして研究するテーマを考えはじめます。

#### 2年生の5月から

自分の希望する進路をもとに「自然科学」「工学」「医療」「人文科学」「社会科学」「教育」「芸術」「生活科学」の8分野のうちの1つを選びます。

#### 6月から夏休みにかけて

自分の選んだ分野について、さまざまな資料を集めながら具体的なテーマを模索します。そして、夏休みには「新書レポート」が課され、テーマに関係する新書を2冊以上読んでレポートを書きます。夏休み明けの9月には具体的なテーマを決定します。その際、共通するテーマをもつ生徒たちは共同研究をするためにグループをつくります。

#### いよいよ10月

本格的な課題研究のはじまりです。分野ごとに指導教官がアドバイスをしながら、情報センター・学習センターとしての図書館を中心として進めます。図書館には図書資料の他に、新聞や雑誌、視聴覚資料やインターネットもあり、生徒たちは自由に利用することができます。本校の図書館にない資料は、市立図書館や県立図書館と連携して、貸出をおこなっています。また、本校は徳島市の中心部にあるため、地の利を活かして徳島大学とも連携しています。徳島大学に講義を聴きに行ったり、徳島大学の先生に来ていただいたりして指導を受けます。恵まれた環境の中でみっちり調べ、研究することで、課題研究は充実したものとなります。

#### 12月には

分野ごとに発表会をもちます。そして分野ごとに代表者を決めて、10余りのグループが「課題研究発表会」で発表します。「課題研究発表会」は2月初旬に徳島市立文化センターでおこないます。今年は「3D化伝～なぜメガネなしで3Dが見えるのか？～」「なぜ歯は再生しないのか？」「なぜ情報にだまされるのか？」「韓国 日本への対抗意識の裏に～100年の時を超えて～」などのテーマで13の班が発表しました。生徒たちはその後、2月末までに最終レポートを提出します。そして、研究成果を『叡智の扉』という紀要にまとめます。

生徒たちはこのような活動をすることで、学問の深奥に触れたり、研究そのものの面白さに触発されたりします。そして、次第に調べることや考えることに意欲的になります。今後も、学校図書館を活用した課題研究を進め、「読む・調べる・考える・表現する」活動をとおして、学びの向上に力を入れていきたいと思ひます。

### ～発表会の様子～



## 言語活動充実のために、学校図書館の機能を活用した取組

新居浜市立船木小学校

平成21, 22年度, 学校図書館機能強化事業(本県の事業名)に取り組んだ新居浜市の研究実践の一端として, 新居浜市立船木小学校における, 市立図書館との連携による取組事例を紹介します。

## 第5学年 国語科「伝え合って考えよう ～人と『もの』との付き合い方～」

## 《単元の主なねらい》

- 相手に自分の考えが効果的に伝わるように話す。
- 構成や資料を工夫して効果的に伝える。
- 自分の考えと照らし合わせて発表を聞く。

## 《本単元で育てたい言語能力》

- 資料を用いて説明する力
- 引用する力
- 要約する力

## 《図書館機能の活用》

## —ごみ問題やリサイクルに関する資料—

学校図書館の蔵書では, 絶対数が不足しているため, 市立図書館へ協力を依頼し, 新居浜市のホームページの資料や参考図書約50冊を準備してもらいました。



情報カードの作成

## 《本単元の主な学習活動》

- 1 ごみ問題等について, 調べてみたい課題を見付ける。
- 2 課題の解決に向けて調べ学習を行い, 情報カードを作る。
- 3 発表に必要な資料を作る。
- 4 図表やグラフなどの資料を提示しながら, 発表練習をする。
- 5 プレ発表会を行い, 自分の発表を見直す。
- 6 4年生との合同学習会を行い, 自分たちの考えを伝え合う。



プレ発表会の様子



## 【図書館の改造】

◇ 市立図書館の学校図書館支援員をはじめ, 多くの方々の協力を得て, 学校図書館に魅力あるスペースを作りました。表紙を見せて本を置くなどの工夫もしています。



## 《本単元における児童の成長》

- 必要な文言や数値などを引用したり図解したりしながら, 効果的に資料提示する発表の手法を知ることによって, 聞き手に分かりやすく表現する力が身に付きました。
- ごみ問題をはじめとする環境についての関心が高まり, 自分が調べたことに関連する本を, 引き続き学校図書館に探しに行く児童が現れるなど, 読書の対象が広がりました。